

お知らせ

愛媛大学医学部附属病院では、医学・医療の発展のために様々な研究を行っています。その中で今回示します以下の研究では、患者さんのカルテの記録を使用します。

この研究の内容を詳しく知りたい方や、カルテ情報を利用することにご了解いただけない方は、以下の【お問い合わせ先】までご連絡下さい。

【研究課題名】

CDDP+VNR 療法施行時のデキサメタゾン追加投与が血液毒性および治療効果に与える影響についての後方視的検討

【研究機関】 愛媛大学医学部附属病院 薬剤部

【研究機関の長】 杉山 隆（病院長）

【研究責任者】 田中 守（愛媛大学医学部附属病院 薬剤部 部長）

【研究の目的】

ビノレルビン（以下、VNR）は静脈炎の発現率が高い薬剤であることが知られています。愛媛大学医学部附属病院（以下、当院）では、既報告を参考に静脈炎の発現予防目的でデキサメタゾン（以下、DEX）を追加で投与してきましたが、追加投与開始以降に血液毒性が軽減する傾向がみられました。一方、この結果は少数の患者さんを対象に調査したものであり、様々な要因が影響して生じている可能性が否定できませんでした。

そこで今回、様々な要因を排除するための解析手法を用いて、VNR 投与時のDEX 追加投与が血液毒性および治療効果に与える影響を検討することを目的に研究を行うこととしました。この研究は有効な治療方法の検討を目的としたものであり、その結果は今後の治療選択に役立てられると考えています。

【研究の方法】

（対象となる患者さん） 2014年4月～2023年2月までに、当院で非小細胞肺癌に対してVNR+シスプラチン（以下、CDDP）療法またはVNR療法を施行した患者さん

（利用するカルテ情報） 年齢、性別、BMI、喫煙歴、飲酒歴、Eastern Cooperative

Oncology Group Performance Status (ECOG PS)、病期分類、前治療歴、VNR 投与状況、CDDP 併用の有無、CYP3A4 阻害薬併用の有無、CYP3A4 誘導薬併用の有無、平均相対用量強度 (average relative dose intensity: ARDI)、白血球数、好中球数、赤血球数、血小板数等

【個人情報の取り扱い】

収集した情報は名前、住所など患者さんを直接特定できる情報を削除いたします。そのため個人を特定できるような情報が外に漏れることはありません。また、研究結果は学術雑誌や学会等で発表される予定ですが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。

< 試料・情報の管理責任者 > 愛媛大学医学部附属病院 薬剤部 山下 登

さらに詳しい本研究の内容をお知りになりたい場合は、【お問い合わせ先】までご連絡ください。他の患者さんの個人情報の保護、および、知的財産の保護等に支障がない範囲でお答えいたします。

【お問い合わせ先】

愛媛大学医学部附属病院 薬剤部 山下 登
791-0295 愛媛県東温市志津川 454
電話番号：089-960-5738